

青少年 はちのへ



かがみ

青少年健全育成シンボルマーク



【発行】 第81号

八戸市教育委員会教育指導課

八戸市内丸一丁目1-1

Tel 43-2111 (内457)

Fax 47-4997

Eメールshido@city.hachinohe.aomori.jp

平成25年11月15日号

「我が家のルール」はありますか

子どもたちは、家庭でのルールや約束を守ったり破ったりしながら、人との関係の在り方や社会のルールの大切さを学んでいきます。家庭のルールには、あいさつ、家に帰る時間、寝る時間、きちんとした姿勢などの生活上のルールもあれば、他人に迷惑をかけない、うそをつかないなどといった道德上のルールもあります。

しつけに一貫性をもたせ、しっかりと身につけさせるためにも、夫婦がよく相談してはっきりしたルールをつくり、子どもとともに親もそれを守りましょう。また、子どもの意見を聞いて一緒にルールをつくるという姿勢も大切です。この機会に、ルールは締め付けるためのものではなく、みんなが楽しく生活するためのものであると感じさせたいものです。「我が家のルール」をつくり、家族全員で取り組んでみてはいかがでしょうか。〔家庭教育手帳(文部科学省)より一部引用〕

ここで、文部科学省と社団法人日本PTA全国協議会との共催により募集した「平成24年度 親子で話そう！家族のきずな・我が家のルール」三行詩の優秀作品を紹介します。



「親子で話そう！家族のきずな・我が家のルール」三行詩 優秀作品

なやみごと 一人でかかえず
うちあげよう
家族の数だけ知恵がでるから
(小学生の部：櫻木 将／福岡県)

ママのひざ
わたしのこころの
じゅうでんき
(小学生の部：野口 佳乃／埼玉県)

わたしが くもって 帰っても
気づけば 母が 晴れにして
きっと 明日は いい天気
(中学生の部：杉本うらら／埼玉県)

ケンカして
ゴメンの代わりに
皿洗い
(中学生の部：眞々田 光／神奈川県)

「ただいま」の声と食欲
それが我が子の
SOS発信源
(一般の部：山谷 知子／愛知県)

偏食は、かあちゃんが許さない。
過食は、ぱあちゃんが許さない。
「孤食」は、家族が許さない。
(一般の部：千吉良 岳／青森県)

八戸市青少年健全育成「市民の集い」にお越しください

「子ども・若者育成支援強調月間」の11月に、次代を担う青少年の健全育成を市民総ぐるみで推進するため、意識啓発と心がふれあう地域活動や育成活動の活性化を目的として、「市民の集い」を開催します。

当日、飛び込み参加でかまいません。お気軽にご参加ください。お待ちしております。〔無料です〕

【日時】平成25年11月23日(土)

13:30～15:30

【場所】八戸市総合福祉会館

(根城八丁目8-155)

【主催】八戸市青少年健全育成

「愛の一声」市民会議

【問合せ】0178-43-2111(内459) 佐藤

【内容】

○講演「地域で遊ぶ、地域で育つ子どもたち」講師：深作拓郎氏

○児童生徒郷土芸能発表…中居林小「えんぶり」・根岸小「虎舞」

○児童生徒弁論発表…お話弁論・防犯弁論の最優秀者の発表

・藤島花桜(町畑小6年) 「4人の食卓」

・松尾 怜(大館中2年) 『『お互い様』の心』

・横葉 奏(小中野中3年) 「ハンサム・ウーマンを目指して」

地域の笑顔に支えられ、今年もグッジョブウィーク

今年で14年目となる「さわやか 八戸 グッジョブウィーク」が、中学2年生を対象に市内公立の全中学校で実施され、およそ2,300名が参加しています。数日間の職場体験や福祉・ボランティア体験から、豊かな感性や創造性ととも自律性を高め、自分の生き方を見つけていくことを目的としています。

また、この事業は、「地域の子どもは地域で育てる」という視点が重要となりますので、学校・家庭・地域社会の三者がそれぞれの役割を明確にし、準備段階からの連携が不可欠となります。毎年、地域の方々の温かい御理解と御協力をいただき、深く感謝いたします。

老人ホームでグッジョブウィークを体験した生徒の感想文を紹介します。

『本当に大切なこと』

八戸市立第一中学校2年 三浦 佳織

グッジョブウィーク前日、部屋の布団の中で明日のことを考えていたら、わくわくしてなかなか眠れませんでした。

明日は、待ちに待ったグッジョブウィーク。私は、学区の老人ホームにお世話になることになっていました。大変そうだけど、小学校のころに一度同じような体験をしているし、明るさや元気には結構自信があったので大丈夫だと思っていました。

しかし、グッジョブウィークはそんな甘いものではなかったのです。

初日、楽しみにしながら事業所についた私は、まず靴の置き方について指摘されてしまいました。脱いだ靴を玄関に置いたままにしていたのです。

「そんなところに置いたら邪魔よ。」

と強い口調で厳しく言われたので、急いで片付けました。

それから私はたびたびボランティアの方から注意を受けるようになりました。おぼんや食器を洗い、ふき終わると、「ここ、まだ水滴が残っている…だめじゃない。」と注意されたり、部屋や廊下の掃除をし終わると「ほら、まだごみが落ちている。しっかり掃除してって言ったでしょ。やり直し。」と言われたりしました。とても強い口調で言われたので、私は、「それくらい、いいのでは？」と思いながらも、仕事を続けました。その後も重い荷物を運んだり、トイレ掃除をしたりする度、ささいなことでも注意され、だんだん「やりたくない」と思うようにもなりました。

それから二、三日目を終え、ついにグッジョブウィーク最終日。また、注意を受けてしまいました。昼食の盛りつけ、配膳をしている際におかずを少しこぼしてしまったのです。また強い口調で注意されました。そして、担当の方は真剣な顔で、「お年寄り小さいことで不安を感じるの。私たちにはささいなことかもしれないけれど、利用者さんにとっては大きなことかもしれない。それを見分けるのは難しいけれど、大切なのは相手の立場になって考えることよ。」とおっしゃっていました。私は今でもその言葉が心に残っています。私は今まで自分の立場でしか物事を見ていませんでした。よく「相手のことを考えよう」と言われますが、相手のことを考えるととはどういうことなのか、分かっていなかったのです。

それから私は、物事を相手がどうして欲しいのかを考えながら喜んでもらえるように仕事すると、自然と注意を受けることが減り、利用者の方々にも「ありがとう」と声をかけてもらえるようになりました。

今回、私は相手のことを考えると、「相手の立場になって考える」ということだと学びました。グッジョブウィークで学んだことは、今の私の生活にも生きています。

私は、また一つ成長できたと思います。



〔写真は、白銀中学校と第一中学校の今年度の活動のようすです〕